（令五国グ後）

小論文

・問題は1～7ページである。
・下書き用紙は中に2枚入っている。

注意　解答は答案用紙に縦書きで記入しなさい。

小論文　二〇〇点

次の文章を読んで、あとの問一～三に答えなさい。

著作権保護の観点から，問題は掲載していません。

著作権保護の観点から，問題は掲載していません。

著作権保護の観点から，問題は掲載していません。

著作権保護の観点から，問題は掲載していません。

著作権保護の観点から，問題は掲載していません。

出典　平野千果子『人種主義の歴史』(岩波書店、二〇二二年)より。一部、省略・改変したところがある。

注

1　ホッテントット――この呼称について著者は、次のように述べている。「言うまでもなくホッテントットは蔑称で、今日では彼らの自称からコイ人と呼ばれる。コイは人間という意味で、コイコイ人ともいう。南アフリカにはブッシュマンと呼ばれた人びともいるが、今ではサン人と呼ばれ、両者を合わせてコイサン人とも称される(この他にも多様な先住民がいたことには、ここでは触れない)」(『人種主義の歴史』、一一〇頁)。著者は、一九世紀欧米人の認識や世界観を分析するために、この文章ではあえて「ホッテントット」を用いている。

2　ジョルジュ・キュヴィエ――フランスの博物学者。動物学、古生物学、比較解剖学を専門とした。

3　ホッテントットのエプロン――コイ人女性に見られた発達した小陰唇がこのように呼ばれていたが、当時のヨーロッパにおいては様々な憶説を生んでいた。

4　ベルニエの分類――フランソワ・ベルニエ(一六二〇～一六八八)による人種分類。人種概念による人間の分類を初めて行ったとされている。

問一　傍線部(1)「互いに似通った時代の感性」とはどのようなものか。二〇〇字以内で説明しなさい。（配点三〇点）

問二　傍線部(2)『世論の汚染』を科学が下支えしている」とはどのようなことか。サラ・バールトマンの事例に関連づけながら、四〇〇字以内で説明しなさい。（配点五〇点）

問三　傍線部(3)「誰が誰にいかなるまなざしを向けるのか」とあるが、この文章で述べられている「まなざし」がどのようなものかを説明した上で、具体的なできごとや自らの体験などを取りあげつつ、現代社会における「まなざし」について一〇〇〇字以内で論じなさい。（配点一二〇点）